

Think the Earth Paper

Vol. 5 Autumn - Winter / 09 - 10

→ 生物多様性のびっくり20



ほかの誰にも似ていない、
ほかのどこにも似ていない、
たくさんの生きものが棲む場所で。

野生の王国ともいわれるアフリカから。右上) ケニア、マサイ・マラ動物保護区のチーター。世界一の俊足で知られるチーターは、絶滅が危惧されている動物の一種。右下) タンザニア。約1万5000km²もの広さがあるセレンゲティ国立公園の草原のシマウマ。左上) ナミビア、エトーシャ国立公園の水たまりに集まるヌーやオリックス、インバラたち。左下) タンザニアにある世界最大のカルデラ、ンゴロンゴロのクレーター中央部の湖に集うフラミンゴ。写真/佐々木拓史

Think the Earth
www.ThinktheEarth.net/jp

Think the Earth プロジェクトは「エコロジーとエコノミーの共存」をテーマに2001年に発足したNPO（非営利団体）です。クリエイティブやコミュニケーションの力で、日常生活のなかで地球や世界との関わりについて考え、行動する、きっかけづくりを行っています。

環境や社会問題への無関心とあきらめの心こそ最大の課題ととらえ、ウェブサイトや書籍などで情報発信を行っているほか、企業やNPO、クリエイターとともに誰もが参加できるプロジェクトを開発・提供しています。

すごい生き物。不思議がいっぱい！ 生物多様性のびっくり20

私たち人間は、地球上に暮らす数千万種の生きもののひとつでしかないってこと、忘れてはいませんか？

しかも、その生きもののほとんどが、人間よりずっと前から地球上に存在してきた大先輩。

人間では考えられないような驚くべき性能や能力を持っています。こんなに賑やかで多様な生物ってすごい！

地球が
うまれる

46億年前

アリ、マカランガ

3 仲良く一緒に進化しています

東南アジアの熱帯に生えるマカランガという木は、体の一部を空洞化させてそこをアリの巣として提供し、アリに、害虫から葉を守ってもらっている。アリの側も、安全なすみかを得るうえに、マカランガの樹液を食料とする。こうした「アリ植物」はほかにも何種もあり、アリが巣のなかでする糞から養分をもらうものもある。互いが互いを必要とし、ともに生活や姿を変えながら進化してきた「共進化」のうわい例だ。

19億年前

陸地の
集まり、
できる

シメコロシノキ

2 宿を乗っ取るぶっそうな客

イチジクの仲間シメコロシノキは、ほかの大きな木の枝の上で芽を出して、巻きつきながら伸びていく。つる植物のように木に巻きつくだけでなく、自分の幹をどんどん太く高くして、自力で立てるほど成長すると、もはや用なしとなった元の木をがんにがらめにしめつけ、自分の体でおおってしまう。土の養分や太陽の光をシメコロシノキに奪われた宿主は枯れて崩れ落ち、その部分が空洞となって、外側のシメコロシノキだけが残る。

10億年前

多細胞生物と
カビなどの真菌類が
うまれる

カレハガ、リーフフィッシュなど

1 持って生まれたステルス機能

人間は、ジャングルで目立たないようにしたかったら迷彩服を用意しなくてはならないけれど、もともとまわりの風景に溶け込む姿かたちを持って生まれた生き物もいる。たとえば、カレハガやリーフフィッシュは枯れ葉にそっくり。カメレオンやイシガレイになると、持って生まれた姿にすら頼らず、まわりの風景に合わせて自分の体色を変えてしまうという特殊能力を持っている。彼らが風景に溶け込んでしまったら、見つけるのは困難だ。

11億年前

植物が
陸地に進出
木が
うまれる

7億年前

シャコ

7 紫外線も赤外線も見えています

人間は、赤、青、緑の3色の組み合わせで色を認識しているが、シャコは12もの色の組み合わせで世界を見ているという。人間が見える範囲の色はもちろん、テクノロジーの力を借りないと見ることができない紫外線や赤外線をとらえることができる。シャコが見ている世界を人間が想像することは難しいが、シャコが人間よりもはるかに多くの情報を色から得ていることは間違いない。ちなみに、多くの哺乳類は赤と青の2色の組み合わせでものを見ている。

昆虫、
両生類、
は虫類などが
陸地に進出。
劇的に
多様化

3.7億年前

ボノボ

12 争いは愛で解決

食べものをめぐり争いやメスをめぐり争い……。人間に限らず、ほかの生き物の世界も、争いと無縁ではられない。力が物をいう“争いごと”にユニークな解決法を見出したのが類人猿のボノボ。争いが起きそうな状況になると、手近な誰かをつかまえて性行動をする。ひとしきり性行動にいそんだ後は緊張がやわらぎ、暴力沙汰は回避される。力に頼って無用な血を流すことを好まない、「戦争ではなく愛を」を地でいく動物だ。

裸子植物が
うまれる

3億年前

ミズタマガエル

17 体に水をたくわえて眠る

オーストラリアは国土の大半が激しく乾いた砂漠地帯。でも砂漠でくらす生き物たちのなかに、乾燥に弱くはらずの両生類、カエルがいる。ミズタマガエルは、雨の降らない時期になると、体重の倍ほどの水を体内に吸収してボールのように膨らみ、地面に穴を掘ってそのなかで夏眠に入る。そして季節が変わり、激しい雨が降るとその雨音で目を覚ます。オーストラリアの先住民、アボリジニの人々は水不足になるとこのカエルを探して掘り出し、絞って水を飲むのだとか。

2.5億年前

史上最大の
大量絶滅
原因は
火山活動による
酸素欠乏

2.3億年前

ほ乳類と
恐竜の
祖先がうまれる

2.3億年前

ワラビー

18 “スーパー抗生物質” 入りのお乳

オーストラリアにすむ小型のカンガルー、ワラビーの赤ちゃんは、まるで胎児のような超未熟児で生まれてくる。赤ちゃんは、産まれたら自力でお母さんの体を登り、おなかの袋へ、体の大きさはほんの数センチほどで、体を守る毛も生えていない。免疫もまったく発達していないのに、感染症にかからないでいられるのは、母乳に秘密がある。ワラビーのお母さんのお乳には、ペニシリンの100倍とも言われるきわめて優秀な抗生物質が含まれているのだ。

5億年前

大気中の酸素が増え、
オゾン層が発達。
紫外線を防ぐようになる
海の生物が劇的に多様化
弱肉強食の世界はじまる

14億年前

14 鉛やヒ素を食べてもケロリ

鉛やヒ素などの重金属は、人間の体内に入れば命にかかわるほどの毒。工場跡地では、住宅をつくりたくても土に入り込んだ重金属の汚染が心配される。ところが、近年イギリスで見つかったミミズは、鉛やヒ素で汚染された土を食べて元気に暮らしている。重金属を特殊なタンパク質で包み、無毒化して体内を通過させているらしい。汚染された土壌にこのミミズを放せば、土壌から鉛やヒ素などの重金属の害を除去できるかもしれない。

史上最大の
氷河期！
地球全体が凍り、
多くの生物が絶滅

7億年前

ここぞまた
大量絶滅

鳥類が
出現

1.5億年前

『いきものがたり 生物多様性11の話』

「地球は人間だけのものじゃない」をテーマに「生物多様性」を分かりやすく書き下ろした11篇。養老孟司、藤田紘一郎、しりあがり寿などの豪華寄稿陣を迎え、驚きに満ちたコンテンツが次から次へと展開。全国の書店で好評発売中！
企画監修：山本良一（東京大学教授）
編著：Think the Earth プロジェクト
発行：ダイヤモンド社 価格：1,995円（税込）



想像してみても楽しい。

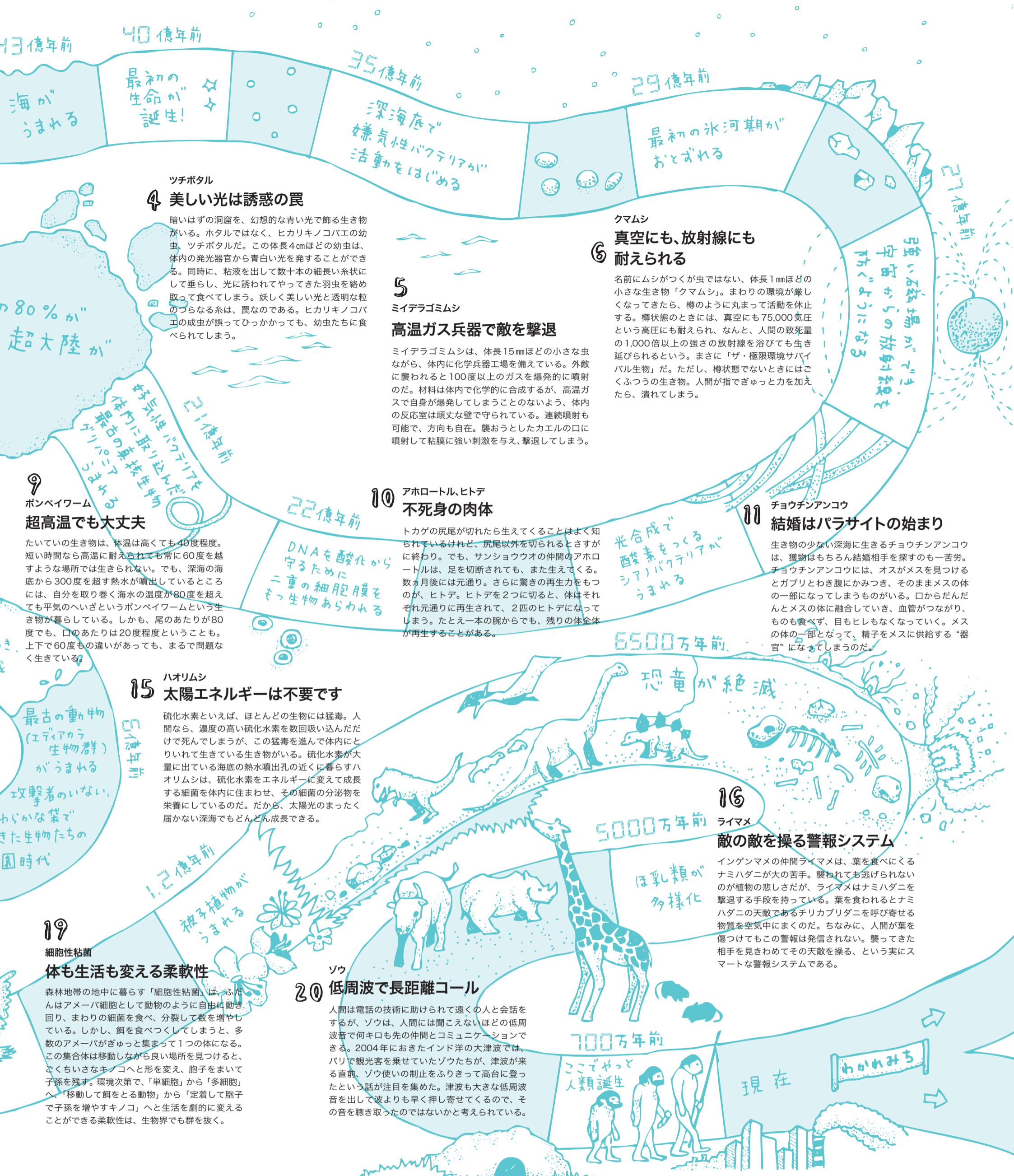
個体、種、生態系、そのすべてのレベルでの多様性が生物多様性。これは生物が生物であるために、そして、地球を覆い、38億年間生き延びることを可能にさせた鍵なのだ。森や海で出会う奇怪で想像を超えた形相の生物、その背景にどのような意味があるのか、想像してみても楽しい。

専門家に聞いてみた！
生物がすごい理由

足立直樹（フナナヒリティ・プランナー）
生物は本来的に多様である。38億年前にたったひとつの細胞が生まれたときから、ひとつ世代を経るごとに多様性を増し、ついには3000万以上の種の種になった。いや正直に言うと、私たちは今の地球上にどれだけの生物種が存在しているか知らない。そのくらい、生物の多様性は圧倒的である。

上に紹介された生物たちの驚くべき知恵や能力はどのように育まれたのか。なぜこれほどまでの多様性が生まれ、広がったのか。それは、変化が必要だったからだ。ある特定の環境にだけ適応していたのでは、その環境ではどんなに効率がよくても、ひとたび環境が変われば、生き延びることが難しくかもしれない。つまり、多様であることが、未来への可能性であり、強さの源泉だったのだ。

それだけではない。個体や種だけではなく、生態系というシステムでも多様性は重要だ。クモの巣の網のように複雑なネットワークで生物は互いにつながっている。そのネットワークが複雑であればあるほど、特定のつながりに対する依存度は低くなり、何か起きたときにも安全だ。多様な生態系の中に多様な要素が多様なつながりを持っていることが、全体の安定性を高めているのである。



43億年前

海が
うまれる

最初の生命誕生!

35億年前

深海で
嫌気性バクテリアが
活動を始める

29億年前

最初の氷河期が
おとされる

21億年前

宇宙からの放射線を
防ぐ磁場が「電子
宇宙からの放射線を
防ぐようになる

4 ツチボタル 美しい光は誘惑の罠

暗いはずの洞窟を、幻想的な青い光で飾る生き物がいる。ホタルではなく、ヒカリキノコバエの幼虫、ツチボタルだ。この体長4cmほどの幼虫は、体内の発光器官から青白い光を発することができる。同時に、粘液を出して数十本の細長い糸状にして垂らし、光に誘われてやってきた羽虫を絡め取って食べてしまう。妖しく美しい光と透明な粒のつらなる糸は、罠なのである。ヒカリキノコバエの成虫が誤ってひっかかっても、幼虫たちに食べられてしまう。

5 ミイデラゴミムシ 高温ガス兵器で敵を撃退

ミイデラゴミムシは、体長15mmほどの小さな虫ながら、体内に化学兵器工場を備えている。外敵に襲われると100度以上のガスを爆発的に噴射のだ。材料は体内で化学的に合成するが、高温ガスで自身が爆発してしまうことのないよう、体内の反応室は頑丈な壁で守られている。連続噴射も可能で、方向も自在。襲おうとしたカエルの口に噴射して粘膜に強い刺激を与え、撃退してしまう。

6 クマムシ 真空にも、放射線にも 耐えられる

名前にムシがつくが虫ではない、体長1mmほどの小さな生き物「クマムシ」。まわりの環境が厳しくなってきたら、樽のように丸まって活動を休止する。樽状態のときには、真空にも75,000気圧という高圧にも耐えられ、なんと、人間の致死量の1,000倍以上の強さの放射線を浴びても生き延びられるという。まさに「ザ・極限環境サバイバル生物」だ。ただし、樽状態でないときにはごくふつうの生き物。人間が指でぎゅっと力を加えたら、潰れてしまう。

80%が
超大陸が

9 ポンペイワーム 超高温でも大丈夫

たいいての生き物は、体温は高くても40度程度。短い時間なら高温に耐えられても常に60度を越すような場所では生きられない。でも、深海の海底から300度を超す熱水が噴出しているところには、自分を取り巻く海水の温度が80度を越しても平気のへいざというポンペイワームという生き物が暮らしている。しかも、尾のあたりが80度でも、口のあたりは20度程度ということも。上下で60度の違いがあっても、まるで問題なく生きている。

10 アホロートル、ヒトデ 不死身の肉体

トカゲの尻尾が切れたら生えてくることはよく知られているけれど、尻尾以外を切られるとさすがに終わり。でも、サンショウウオの仲間のアホロートルは、足を切断されても、また生えてくる。数ヵ月後には元通り。さらに驚きの再生力をもつのが、ヒトデ。ヒトデを2つに切ると、体はそれぞれ元通りに再生されて、2匹のヒトデになってしまう。たとえ一本の腕からでも、残りの体全体が再生することがある。

11 チョウチンアンコウ 結婚はパラサイトの始まり

生き物の少ない深海に生きるチョウチンアンコウは、獲物はもちろん結婚相手を探すのも一苦労。チョウチンアンコウには、オスがメスを見つけるとガブリとわき腹にかみつき、そのままメスの体の一部になってしまうものがある。口からだんだんとメスの体に融合していき、血管がつながり、ものも食べず、目もヒシもなくなっていく。メスの体の一部となって、精子をメスに供給する「器官」になってしまうのだ。

最古の動物
(エディアカラ
生物群)
がうまれる

15 ハオリムシ 太陽エネルギーは不要です

硫化水素といえば、ほとんどの生物には猛毒。人間なら、濃度の高い硫化水素を数回吸い込んだだけで死んでしまうが、この猛毒を進んで体内にとり入れて生きている生き物がある。硫化水素が大量に出ている海底の熱水噴出孔の近くに暮らすハオリムシは、硫化水素をエネルギーに変えて成長する細菌を体内に住まわせ、その細菌の分泌物を栄養にしているのだ。だから、太陽光のまったく届かない深海でもどんどん成長できる。

6500万年前

恐竜が絶滅

16 ライマメ 敵の敵を操る警報システム

インゲンマメの仲間ライマメは、葉を食べにくるナミハダニが大の苦手。襲われても逃げられないのが植物の悲しさだが、ライマメはナミハダニを撃退する手段を持っている。葉を食われるとナミハダニの天敵であるチリカブリダニを呼び寄せる物質を空気にまくのだ。ちなみに、人間が葉を傷つけてもこの警報は発信されない。襲ってきた相手を見きわめてその天敵を操る、という実にスマートな警報システムである。

19 細胞性粘菌 体も生活も変える柔軟性

森林地帯の地中に暮らす「細胞性粘菌」は、ふたんはアメーバ細胞として動物のように自由に動き回り、まわりの細菌を食べ、分裂して数を増やしている。しかし、餌を食べつくしてしまうと、多数のアメーバがぎゅっと集まって1つの体になる。この集合体は移動しながら良い場所を見つけると、ごくちいさなキノコへと形を変え、胞子をまいて子孫を残す。環境次第で、「単細胞」から「多細胞」へ、「移動して餌をとる動物」から「定着して胞子で子孫を増やすキノコ」へと生活を劇的に変えることができる柔軟性は、生物界でも群を抜く。

20 ソウ 低周波で長距離コール

人間は電話の技術に助けられて速くの人と会話をしますが、ゾウは、人間には聞こえないほどの低周波音で何キロも先の仲間とコミュニケーションできる。2004年におきたインド洋の大津波では、パリで観光客を乗せていたゾウたちが、津波が来る直前、ゾウ使いの制止をふりきって高台に登ったという話が注目を集めた。津波も大きな低周波音を出して波よりも早く押し寄せてくるので、その音を聴き取ったのではないかと考えられている。

5000万年前

ほ乳類が
多様化

700万年前

ここでやっと
人類誕生

現在

わいわい

生物多様性条約は、1992年の地球サミットで署名が始まり、翌93年に発効した国際条約。日本も含め、約190の国や地域が加盟しています。COPD (Conference of the Parties) とは、国際条約の締約国が集まって開催する国際会議のこと。今回の会議は、2010年10月に名古屋で開催されることが決まっており、条約施行後10回目の会議となるため、COP10と呼ばれています。2010年は国連が定めた「国際生物多様性年」でもあり、2002年にオランダ・ハーグのCOP6で採択された「2010年目標」の目標年にもあたるため、ひとつの節目となる会議なのです。

生物多様性条約とCOP10

私たちの生命も生活も、豊かな生態系の土台なくして維持することはできません。医薬品や食料、衣料や住宅の原料など、あらゆるものが生物多様性からの恵みです。しかし、人間のせいで多くの生物が絶滅の危機に瀕しています。食用や嗜好品のための乱獲、乱開発によって生物を追い出す、外来種による生態系への侵入など、人間のせいで絶滅してしまった動物は数多くいます。現代の絶滅スピードは、6500万年前の恐竜時代の大絶滅より速いともいわれています。生物の危機は、すなわち人間の危機です。

生物多様性の危機は人間の危機

地球上で数千万種の生きものが織りなす豊かな生態系は、40億年前に生命が誕生して以来、気の遠くなるような長い時間をかけて進化と分化を続けながらつくり出されてきたものです。このように、地球上の生きものがバラエティに富んでいることを、生物多様性と呼びます。生物多様性には、無数の生物種が相互に関わりあいがら暮らしていること(種の多様性)、森、海、河川、湿地や砂漠など様々な生態系があること(生態系の多様性)、同じ種でも遺伝子の違いによって多様な個性があること(遺伝子の多様性)、という3つの側面があります。もちろん人間も、多様な生物の一種です。

生物多様性とは?

生物多様性って何? ちよつとムズかしいけど、押さえておこう!

My Think The Earth : biodiversity

上田壮一 (Think the Earthプロジェクト プロデューサー)

知らないことは罪

「環境に優しい」という言葉は、時に消費を煽る言葉として安易に使われている。たとえばgoogleで「ヤシ油 環境に優しい」と入れると、たくさんの宣伝文句が検索結果に現われる。再生可能な植物から得られることから石油代替資源として注目されていること、プランテーションが二酸化炭素の吸収源となることなどから、一時期「環境に優しい」と宣伝された名残が、まだネット上に残っているのだ。でも、これは大きな誤解。生物多様性という面から見ると、その生産現場では凄まじい環境破壊が行なわれている。

ヤシ油の世界的な需要増に伴って急激に拡大したプランテーションは、広大な熱帯雨林を根こそぎ切り払い、そこで暮らしていた多くの生きものたちの生活の場を奪ってつくられたものだ。ボルネオ島の生産現場で見たのは、なんとも殺伐たる光景。地平線まで続く広大なプランテーションには「たった1種類」の植物しか存在していない。今やヤシ油は、植物性油脂という名で冷凍食品や化粧品など身近な商品に大量に使われていて、知らないうちに消費している。いつのまにか生



地平線まで続く広大なプランテーション

物多様性破壊に手を貸していたと知って言葉を失った。ボルネオでは分断された森をつなぎ、生きものたちが自由に往来できる「緑の回廊」をつくるという運動が始まっている。持続可能なヤシ油の生産を考える国際的な対話もスタートした。だが、消費者が知らなければ何も変わらない。「緑の回廊」プロジェクトを進めるNGO「ボルネオ保全トラスト」の坪内俊憲さんの言葉が耳に痛い。「知らない、ということは罪なのです」。

■緑の絆は結べるか～ボルネオの熱帯雨林で起きていること
レポートはこちら
www.ThinktheEarth.net/jp/thinkdaily/report/
[検索] Think the Earth 地球レポート

My Think The Earth : social action

風間美穂 (Think the Earthプロジェクト 推進スタッフ)

ようこそ「みずのがっこう」へ

地球の表面は約70%が水で覆われていて、私たちの身体もおよそ60%が水。この惑星で暮らす生きものに欠かせない「みず」は、世界を眼くひとつの「窓」だと思えたら、目の前の景色が少し違って見えるかもしれない。私たちが日々潤してくれる「みず」は、蛇口をひねれば何時でも何処でも手に入る、ここ日本では。海や川の水、家の中を流れる水、山肌や身体を駆け巡る水……これら地球を旅する水は、豊かな暮らしを支えてくれるだけでなく、どうやら環境・食・エネルギー問題解決の鍵もにぎっている、らしい。水の専門家に教わりながら、現代社会や環境の問題を紐解いてみよう、「Water Planet 2009」は装いを新たに「みずのがっこう」としてスタートした。

「五感で清流を感じるトレッキング・ツアー」など、バラエティに富んだ12の公式授業を実施。その他にも、クイズ形式の授業やワークショップでは、大人も子どもも頭と身体を使って水の循環を学び、自分と水の関係を見直した。授業の後、一生懸命に自分の言葉で、水の大切さを話してくれた男子の瞳が印象深い。こ

の学校が日本全国に広がり、水の恩恵に感謝する親子が各地で増えたら、未来の窓には明るい光が差し込んでくるに違いない。

暑い夏の間、身近な水を通じて地球や社会を考えるソーシャル・アクションを続けて5年。早くも次の夏に向けて、五感を通じて学べる多様な「授業」を準備中。みずのがっこう 2010 に乞うご期待を。参加資格は、水と関わりのある人。そう、みなさん自身です。

www.ThinktheEarth.net/jp/waterplanet/
[検索] Think the Earth みずのがっこう



左) 伊豆で開催したシーカヤックツアー。水を身体で感じ、心で考える授業 右) 橋本淳司副校長先生の授業「めざせ! アクアマスター決定戦」

My Think The Earth : ecoyomi

平田麻子 (Think the Earthプロジェクト 推進スタッフ)

二十四節気七十二候を暮らしの中に

「えこよみ」の最初の企画書の日付は、2004年5月30日。その少し前に、スタッフから「七十二候」の存在を教えてもらった私は、その言葉の美しさのとりこになった。「ウグイス鳴く」「桃始めて笑う」など、その情景が目の前にイメージされて、シンと冷たい真冬の朝に響く「ホーホケキョ」の声だとか、桃の花の甘やかな香りだとかが自分の中にはっきりと立ち上がってきたのだ。次の瞬間、「私、これ企画にします。絵本にしたいです!」と宣言。仲間の力を借りながら、猛スピードで企画書にしたのを覚えている。

でも、絵本をつくるなんてはじめての経験で、何をどうしたらいいのか手探り状態。この文字数ではどうも語れない紆余曲折があった。文章を書いてくださった加藤久人さん、そしてイラストレーターの松尾たいこさんとの出会いが、企画に命を吹き込んでくれたと感じている。またデザイナー、印刷会社、出版社の皆さんの大きな力で、2005年の立春の頃、最初の絵本「えこよみ」を世に出すことができた。

それから約5年の月日が経ち、2009年1月には3冊



ふたつのえこよみカレンダー、発売中です! 『松尾たいこ えこよみポストカードカレンダー』『二十四節気七十二候華雪 えこよみカレンダー』



目の絵本「えこよみ3」(イラストレーター久村香織さん)を発行。また2009年秋には2種類の「えこよみカレンダー」を発売するに至った。「えこよみ」をきっかけに、二十四節気七十二候をもっと気軽に暮らしに取り入れる人が増えたら素敵だな。そんな想いで突き進んできた5年間。二十四節気七十二候のある暮らしが、もっと広がりますように!

www.ThinktheEarth.net/jp/ecoyomi/
[検索] Think the Earth えこよみ

My Think The Earth : politics

横山ゆりか (Think the Earthプロジェクト 事務局)

「引き上げる」こと

突如として注目を浴びるようになったハッ場ダム計画。ただこれだけメディアに取り上げられても、いったいなにが論点なのか、ややこしすぎてわかりづらい。それもそのはず、ハッ場ダムは1947年に最初の計画が持ち上がった以来、半世紀以上の長きにわたって揺れ続けてきたのだ。度重なる計画の変更、予算の増額、反対運動、住民と行政との交渉、様々な利権。その歴史のなかで状況も人の感情も入り乱れ、とてもじゃないが簡単にはひもとけない。

そもそも、こんなに複雑な問題ができあがってしまったのは、私たちが政治を国に「お任せ」してしまっていたからだ、と「ハッ場あしたの会」事務局長の渡辺洋子さんは社会学者・宮台真司の言葉を引き合いにして語っていた。だから、今後ハッ場のような悲劇を繰り返さないためには、お任せではなく私たちが「引き上げる」政治に変えていく必要がある。

どんなに難しい問題でも、この先どうするのが良いか、自分で考えてみる。身近な人でも、ウェブ上のコミュニケーションでもなんでも良いから、誰かと共有して

みる。そうやって、ひとりひとりが「問題」と「自分」と「世界」とのつながりを想像し、当事者として「引き上げる」視点を獲得し、未来へのビジョンを描く。そうしやすい社会の仕組みを作っていく。……それはとても大変なことに思えるけれど、実際にハッ場ダム建設予定地を訪れ、住民の人たちが乗り越えてきたものすごい苦難を垣間見ると、そうしていきしかない、という気持ちに駆り立てられる。それに、「引き上げる」方が「お任せ」よりずっと面白そう、とも思う。

■「ハッ場あしたの会」のウェブサイトでは、ハッ場ダム建設計画に関する詳細な情報が整理されている。

www.yamba-net.org



代替地の工事現場

Information

01 宇宙からの視点を全ての人へ。地球時計 wn-2

半球系のドームの中で、小さな地球がゆっくりと自転する地球時計 wn-2。24時間で1周し、地球時間が体感できるウェアラブルアースです。ブルー、シルバー、ホワイトの3種類に、オプションパーツを取り揃えて展開中。オンラインショップ「ソーシャル・デザイン・マーケット」でも取り扱っています。

www.ThinktheEarth.net/jp/watch/



02 リアルタイムの地球が見られる携帯アプリ [live earth]

地球の今が感じられる携帯アプリ。くるくると回せる3Dの地球に6時間ごとに更新される雲の様子やリアルタイムの日影を反映。世界時計としても使えます。携帯サイトでは気象情報をはじめ、月齢カレンダーの壁紙や待受けFLASH、地球検定、1秒の世界など盛りだくさんお届け。月額情報料の一部は、Think the Earthプロジェクトを通じて社会貢献のために使われます。2009年10月より、主要3キャリアでご利用いただけるようになりました。

<http://liveearth.thinkearth.net>



03 ソーシャル・デザイン・マーケットで、チャリティキャンペーン実施中

Think the Earthプロジェクトがプロデュースするオンラインショップ「ソーシャル・デザイン・マーケット」では、2010年2月28日まで、ソーシャル・ギフト・キャンペーンを実施中。期間中にお買い物をする、あなたが選んだNGO活動に売上げの一部を寄付としてプレゼント。寄付先は4つのNGOから選ぶことができます。携帯からもアクセスできます。

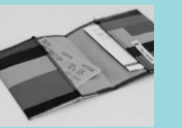
www.ThinktheEarth-shop.com



04 「雷×Think the Earth」充実のシリーズでお届け

長野県にある福祉施設「OIDEYOハウス」とのコラボレーションで生まれた「雷×Think the Earth」の雷バッグ。使用済みの米袋にビニールテープを1枚1枚手作業で貼り重ねた1点ものです。カードケースやブックカバーもラインナップに加え、ピカピカと賑やかに暮らしを彩ります。

www.ThinktheEarth.net/jp/kaminari/



05 地球に関する情報を発信するサイト Think Daily をリニューアル

世界各地のレポートから届けられる地球ニュースや、スタッフが注目する人や活動を訪れる地球レポート、自然災害の支援情報など、地球の話題を日々発信するサイトを12月中旬にリニューアル。あなたが発信したオススメ情報も投稿できます。たくさんの地球人の参加をお待ちしています。

www.ThinktheEarth.net/jp/thinkdaily/
[検索] Think Daily

06 様々な角度から地球を切り取るオンライン地球儀「アースリウム」

インターネット上に、マウス一つでクルクル回せる地球儀をつくり、様々な角度から地球を切り取っています。たとえば「大航海時代」の地球儀は、コロンブスを始めとする冒険家たちの航路が次々と地球儀上に描かれます。知っているようで知らない地球のこと。少しのそいでみませんか?

www.ThinktheEarth.net/jp/earthrium/
[検索] アースリウム

07 日々の活動やおすすめ情報などをTwitterでつぶやいています

Think the Earthプロジェクトの活動のお知らせやおすすめのイベント情報、オンラインショップのイチオシ商品、スタッフのぼやきまで、Twitterで日々つぶやいています。たまにTwitter限定キャンペーンを開催する可能性も!? みなさまの温かいフォローをお待ちしています。

Twitter - Think the Earth
<http://twitter.com/thinkearth/>

08 プロジェクトの活動をサポートする個人会員アースコミュニケーター募集中

ひとりでも多くの人が地球との関わりについて感じ、考え、行動することで世界は変わる。この想いに共感し、プロジェクトの活動をサポートして下さる個人会員を募集しています。私たちと一緒に地球のことを学び、伝えていきませんか? 勉強会・交流会へのご案内などもさせていただきます。下記WEBページをご参照のうえ、ぜひご参加ください!

www.ThinktheEarth.net/jp/join/communicator/

2009年度パートナー企業 (2009.11.27 現在 五十音順)
株式会社eTEN / 株式会社NTTデータ / カシオ計算機株式会社 / KDDI株式会社 / シャープ株式会社 / セイコーインスツル株式会社 / 株式会社堀場製作所 / ポロ・ピーシーエス株式会社 / 三井不動産株式会社 / 株式会社ユニクロ

発行●Think the Earthプロジェクト 〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町3-1 エムワイ代官山201
TEL.03-3464-5221 FAX.03-5459-2194 E-mail tte-office@ThinktheEarth.net
発行日●2009年12月 STAFF●企画/上田壮一 編集/岡野民 横山ゆりか
文/江口絵理 (生物多様性のびっくり20) デザイン・イラスト/武田英志 (hoop)
協力/平田麻子 朝香パースリー



P-B10002

Think the Earth